

概観

【政治・社会】

政府は、先月下旬の内閣改造に続き、次官・副市長ポストの削減を行った。また、庁・公団の統廃合、内務省等の浄化対策等、早急な内務・司法改革、及びEU資金管理問題の改善のための指針を打ち出した。

【 経 済 】 穀物・食品の値上がりもあり1～4月のインフレ率は13.6%、また失業率は先月よりさらに改善され、6.51%に。外国投資は自動車関連に集中、引き続き堅調。

【我が国との関係】

*我が国の経済協力：供与式相次ぐ（草の根・人間の安全保障無償資金協力案件）

*日・ブルガリア：地域交流が活発化

政治・社会

1. 内政

◆政府人員削減

▶政府は7日、72あった次官ポストを14削減し、59とした。また、各市の副市長ポストも24ポストを削減、さらに12日には、カルフィン副首相兼外相が今後20の庁・公団を統廃合し、公務員700～800名を削減すると発言した。

◆国防省改革

▶ツォネフ新国防大臣は、15日、国防省の人員280名の削減を行う意向を表明した。同大臣はまた、国防省内で行われていた機材の流用等の不正行為の実態について、明らかにすることを約すると同時に、軍人が最小限の生活レベルを維持できるよう労働条件及び給与の改善が必要と訴えた。

◆内務省改革

▶内務省ペトロフ官房長（20日）及び国家警察総局ペトロフ長官（19日）が辞職、内務省幹部の交

替が続いた。ミコフ内務大臣は、今後とも大幅な人事異動、及び内務省組織とりわけ組織犯罪対策関係部局の再編等を検討実施していく構えであると述べた。

◆EU 資金吸収問題: 欧州委が早急な取り組みを要求

▶ブルグチエヴァ副首相兼EU資金担当大臣は6日、ブリュッセルを訪問、欧州農業・農村開発委員長等とEU資金管理問題につき協議を行った。

▶EU加盟前援助に関し、プロジェクト実施段階での不適切な運用の事案が複数見つかったため、3月以来支払いの凍結措置がとられている問題について、欧州委員会は、ブルガリア政府に対し、6月16日までにEU資金を有効に管理するためのメカニズムを構築した上、発生した問題の究明を行うよう要求した。

◆EU 資金吸収問題対策

▶16日、ブルグチエヴァEU資金担当大臣は、欧州委より、EU資金運用・管理の関係機関間の情報伝達が十分なされていないとの指摘を受けていたこ

とを受け、EU 資金のプロジェクトの主要な実施機関である運輸省、財務省、農水省等の次官等幹部レベルの交替・所掌事項の整理を行った。

▶また、同大臣は、EU 資金吸収が最も順調に進められているのは国家行政省及び社会労働省であり、手本とすべきであること、26 日までに関係省庁に必要な人材を配置すること、実施機関関係部局の浄化が必要であること等を指摘した。

◆新党 BND(ブルガリア新民主主義: Bulgarian New Democracy) 結成総会開催

(11日)

▶昨年末から本年初頭にかけて、SNM(シメオン元国王国民運動。連立与党。)を脱退した複数議員が新党を結成、党首にはニコライ・スヴィナロフ元国防大臣が就任した。同党は国民議会240議席中17議席を占める野党第1党となった。

◆ペトコフ議員(前内相) 不逮捕特権を放棄

▶ボリス・ヴェルチェフ検事総長は国民議会に対し、ペトコフ前内務大臣の不逮捕特権を停止するよう要求した。それに対しペトコフ議員は自らの不逮捕特権を放棄する旨宣言した。

▶ペトコフ前内相は、内務省幹部と組織犯罪の癒着等のスキャンダルが理由で先月内相を辞職し、国民議会議員に復帰していた。

2. 外政

◆ブルガリア: コソボ国際運営グループのメンバーに(22日、プリシュティナ)

▶ブルガリアはエストニア、アイルランド、ラトビア、ルクセンブルグ及びポーランドと共にコソボ国際運営グループ(ISG International Steering Group)に新メンバーとして加わり、第3回 ISG 会合に出席した。

◆南東欧協力プロセス(SEECP)首脳会合ブルガリアで開催される(19-21日)

▶同会合にはコソボからはヒセニ外相がオブザーバーとして出席し、発言の機会を与えられたが、その後タディッチ・セルビア大統領が議場から退席した。

▶スタニシェフ首相は、共同宣言についてはコソボの表記について参加国間に立場の相違があったにもかかわらず、21日、全会一致で採択、歴史的に不安定な地域と見なされてきた南東欧諸国が、相互理解と協力への政治的意志を示すことができた、として同成果を高く評価した。

▶本会合の終了をもって2007年5月からの1年間のブルガリアの議長国期間が終了し、モルドバが議長国を引き継いだ。

経済

1. マクロ経済

◆インフレ率13.6%(1~4月対前年比)

▶1-4月のインフレ率は対前年比13.6%、4月のインフレ率(前年同期比)は14.6%と引き続き高止まりしている(統計局発表)。

▶個別品目でも豆、米、ひまわり油の価格はそれぞれ対前月比2~4%上昇、鶏肉、砂糖、小麦、卵も2%前後で推移している。一方、チーズ、ソーセージは0.6~1.0%下落、トマトは22%の上昇、きゅう

り、ジャガイモはそれぞれ16%、11%の下落と品目によってばらつきが見られる。

▶ディミトロフ経済大臣は、国内需要に減速感が見られること、また、穀物価格が収穫高好調を反映し400レヴァ/トンに落ちている(昨年は500レヴァ/トン)ことから、インフレ率も今後落ち着き、08年のインフレ率は6.9%、09年4.4%、2010年3.7%となるであろうと述べた。

▶当地シンクタンクは08年のインフレ率は6~7%を超えないと予測する一方、5~9月のうち少なくとも3ヶ月はデフレ傾向となると予測している。

◆第1四半期の平均月収は約247ユーロ

▶08年第1四半期の平均月収は484レヴァ(247.44ユーロ)で、前期比6.1%増となった(統計局発表)。公的部門では2レヴァ、民間部門は36レヴァの上昇となっている。

▶最も賃金が高かったのは金融部門で(1153レヴァ=589.47ユーロ)、製造部門、電力部門(818レヴァ=418.20ユーロ)と続いている。最も低かったのはホテル・レストラン部門(315レヴァ=161.04ユーロ)、農林水産部門(348レヴァ=177.91ユーロ)であった。

◆失業率さらに低下:6.51%

▶4月の失業率は3月より0.29ポイント改善し、6.51%となった(登録失業者数は約24万人)。ビジネス環境は日々改善され、現在21668件の求人(うち民間部門11698件)がある。また現在65715人が雇用・訓練プログラムを受けている。

▶労働・社会政策省は、2015年までに15~64歳の労働者の72%の雇用を達成することを目標としている。これはリスボン戦略で規定される70%の雇用の2年前倒しでの達成を意味している。本目標の達成により、女性の雇用率は68%、若者は30%強となり、15歳以上の失業率は5%になると予測されている。

◆1・2月の貿易赤字は24億レヴァに

▶1・2月の輸出は45億レヴァ(30.7%増)、輸入は69億レヴァ(25.1%増)であった(国家統計局発表)。

▶対EU域内への輸出は24%(29億レヴァ)、輸入は11.6%(40億レヴァ)増加。

▶国別では対ロシア貿易の伸びが著しく、輸出は69.5%(1.246億レヴァ)、輸入は25.1%(8.76億レヴァ)の伸びとなった。

◆税収の大幅増大:財政黒字増大

▶オレシャルスキ財務大臣は、1~4月の財政黒字

は27億レヴァと発表した。そのうち約6億レヴァはオペレーショナル・プログラムとして利用される予定。

▶同大臣は、所得減税や社会保障税の軽減がむしろ税収の増大にポジティブなインパクトを与えたとして右を高く評価した。

▶また、ソフィア市も、1~4月の国税徴収分が同時期前年比46.11%(5.53億レヴァ)上昇したと発表、同市の個人事業者による所得税は2.55億(昨年同時期から6900万レヴァの伸び)、事業者の払う所得税も1.35億レヴァ(昨年同時期から2600万レヴァの伸び)となった。

2. 外国投資

◆ウィーネンベルガー社が2500万ユーロの投資

▶世界有数のレンガ・建材メーカーのウィーネンベルガー社がブルガリアにおいて既存の工場をリノベーションし、最新の製造工場を建設すると発表した。投資額は約2500万ユーロ。

▶同工場はEUの環境・エネルギー効率・労働基準をすべてクリアしたものとなる予定。本工場では最新のセラミック製品POROTHERMを生産する予定。

◆アクタス・グループが自動車部品工場をオープン

▶トルコのアクタス・グループがプロヴディフの工業団地にニューマチック・スプリング及びエアバッグの生産工場をオープンさせた。本工場は800万ユーロの投資により1年半かかって建設されたもので、すでに当地では第2工場の建設が進められている。

3. エネルギー

◆次期エネルギー戦略は年末に公表予定

▶トシェヴァ経済・エネルギー省次官は2020年までのエネルギー戦略を本年末までに策定すると述べた。現在検討中の案では再生可能エネルギーの利用率を20%に高め、エネルギー効率を50%改善するとなっている由。

▶南東欧地域のエネルギー収支は、08年には150

0万 MWh の入超になると予測されている。(07年は1200万 MWh の入超だった)

▶ブルガリアは現在ロシアにエネルギー資源の多くを依存しているが、経由国であるウクライナとロシアとの間で問題が発生するとブルガリアのエネルギーにも影響が及ぶ可能性がある。そのため、直接ロシアから黒海を経由するサウス・ストリームと EU が推進するナブッコの両プロジェクトを推進している。

◆地域暖房料金を15～20%値上げ

▶エネルギー・水規制委員会のシヨシヨロフ委員長は、地域暖房料金(公共料金)を15～20%引き上げる必要があると述べた。これは天然ガスの料金引上

げに加え、石炭価格の上昇によるもの。

▶一方電力料金については、電力公社は20%引上げを支持しているものの、同委員会は家庭用電力の料金を18%以内に抑えるとしており、引き続き議論が続けられる模様。

▶また水道料金については、EBRD より6000万ユーロの融資を受ける条件として、水道料金を0.80レヴァ/m³から1.02レヴァへ引き上げることが求められており、引き上げ幅については今後議論される予定となっている。

わが国との関係

1. 経済協力

◆草の根・人間の安全保障無償資金協力案件供与式相次ぐ

各供与式では、被供与団体代表の他、参加した各自治体の首長から、日本からの支援に対して重ねて感謝の意が表された。

▶ネデリノ町(ブルガリア中南部)第一、第二幼稚園(21日)
窓、壁、トイレ等の破損、屋根の水漏れ等を改修、衛生的・快適な基礎教育環境が整った。(約58,000€、平成18年度案件)

▶アセノフグラッド総合病院(22日)
周辺自治体の患者も受入れる地域の中核的医療機関に発展させていくべく、医療機器を充実させた。人工呼吸器、ベッドサイドモニターを購入・整備。(約40,000€、平成18年度案件)

▶ロマン肺病長期治療専門病院(26日)
超音波診断器具を購入・整備し、肺病の早期発見が可能となった。(約37,000€、平成19年度案件)

▶バルダルスキ・ゲラン村孤児院(26日)
老朽化した建物を改修し、衛生的で安全な居住環境が確保された。(約50,000€、平成18年度案件)

2. 地域交流

▶横浜市保土ヶ谷区・ソフィア市

「文化・教育・スポーツ等パートナー都市協定」第1号事業としてソフィア市第18総合学校日本語コースの5名の生徒が保土ヶ谷区清風高校に体験留学した(22～28日)。夏～秋には横浜市無形遺産・川島囃子のソフィア公演が予定されている他、2009年3月には横浜市の高校生がソフィアを訪問する。

▶カザンラク市バラの女王、日本語弁論大会優勝者が訪日(14～24日)

2007年カザンラク・バラの女王ゲオルギエヴァさんと、2008年日本語弁論大会中級の部優勝者ガジエヴァさんが、福山市バラ祭、岡山市バラ祭等への参加のため訪日した。

▶プロブディフ市長、岡山市を訪問

岡山市の姉妹都市・プロブディフ市から訪問団(団長:アタナソフ市長)が岡山市を訪問、高谷市長と会談した他、岡山市バラ祭にも出席した。

▶29日、カザンラク市でバラ女王コンクールが開催され、地元民族舞踊アンサンブル「アーセナル」団員として既に3度の訪日経験をもつヴァシレナ・ナイデノヴァさんが2008年女王に選出された。

ブルガリア内政・外交の動き（2008年5月）

在ブルガリア大使館

1（木）	メーデー
2（金）	●バルヴァノフ大統領：中欧サミット会議に出席（マケドニア オフリッド～3日）
3（土）	
4（日）	
5（月）	
6（火）	●ピリンスキ国会議長：フランス訪問。議長等と会談 ●ブルグチエヴァ EU 資金担当大臣：EU 資金吸収問題につき関係欧州委員会委員長等と協議（ブリュッセル～7日）
	（聖ゲオルギの日）
7（水）	●国民議会 再開
8（木）	●国民議会： ・ブルガリア・中国間の国防省間の交流・協力促進に係る協定批准 ・ブルガリア・エジプト間の労働分野に於ける協力覚書批准 ・世銀融資（07年9月署名、世銀融資9千万ユーロ+ブルガリア政府54百万ユーロで約450kmの道路改修）承認 ●マリーヌ副大統領：チェコ訪問（～11日） ●エストニア・タリンに大使館開設を決定
9（金）	●次官ポスト14を削減 ●スタニシェフ首相、関係閣僚等と在ブルガリアEU諸国大使に内閣改造及び内務・司法改革について説明
10（土）	●連立与党3党党首・党幹部がEU資金、医療福祉改革、内務省改革について協議
11（日）	●新党BND（Bulgarian New Democracy）結成総会
12（月）	●プロヴディフ市国際見本市開催（～27日）内外975社参加 ●カルフィン副首相：20の庁・公団の廃止、公務員800名の削減をする旨発言
13（火）	
14（水）	
15（木）	●閣僚評議会：ブルグチエヴァ EU 資金担当大臣の所掌を決定 ●ツォネフ国防大臣：国防省人員の13.4%、280名の削減を発表
16（金）	●ブルグチエヴァ EU 資金担当大臣：各省のEU 資金担当次官の交替、担当体制の変更を発表 ●バルヴァノフ大統領：中南米・カリブ・EU 首脳会議出席（ペルー・リマ）
17（土）	●政府：EU 資金吸収問題対策グループを設置
18（日）	
19（月）	●国家警察総局ヴァセリン・ペトロフ長官辞職
20（火）	●SEECP 首脳会議（ボモリエ）開催 ●アゼルバイジャン議員団：ブルガリアを訪問（～21日）

	●内務省ヴァレンティン・ペトロフ官房長辞職
21 (水)	
22 (木)	<p>●国民議会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KfW Bank group 融資（4百万ユーロ。農村開発。借り換え）を承認 ・EBRD 融資（4千万ユーロ、幼児早期教育プロジェクト）を承認（EU 資金プロジェクトを補完） <p>●閣僚評議会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧州原子核研究機構（CERN）における CMS プロジェクトの維持管理に関する覚書承認（ブルガリアは99年より CERN・CMS プロジェクトの原メンバー） ・韓国との観光促進に関する覚書承認 ・ベルギーとの社会政策に於ける <p>●ルーメン・ペトコフ議員（前内務大臣）：議員不逮捕特権を自ら放棄</p> <p>●ピリンスキ国会議長：チェコを訪問。クラウス大統領、Sobotka 国会議長等と会談（～24日）</p> <p>●ブルガリア、コンソボ国際運営グループ（ISG International Steering Group）メンバーとなる。第3回 ISG 会合（プリシュティナ）に参加</p>
23 (金)	<p>●密入国組織（ルート：トルコ→ブルガリア・ルーマニア経由→欧州）組織を検挙。3名逮捕。</p> <p>●国際的なマネーカード偽造グループを検挙。3名逮捕。</p> <p>●デ・ボープ・スケツフェル NATO 事務総長：ブルガリアを訪問、大統領、首相、外相等と会談。事務総長、ブルガリアのアフガニスタン ISAF 参加を評価。</p> <p>●ルシコフ・モスクワ市長：ブルガリアを訪問。スタニシェフ首相と会談。経済・文化・社会分野での協力促進につき意見交換。</p>
24 (土) 琴欧州優勝	<p>●カルフィン外相：ローマ法王庁訪問。フラツィーニ伊外相と会談。</p> <p>●ツォネフ新国防大臣、国防省内の機材の流用の実態が明らかになった旨発表するとともに軍人の生活保障の改善が急務と発言。</p>
25 (日)	
26 (月)	<p>●独・ブルガリア2国間技術協定署名（ディミトロフ経済・エネルギー大臣・在ブルガリア独大使。雇用促進、職業訓練など4百万ユーロ。）</p> <p>●ブルガリア：EU 加盟国の「防衛装備調達に関する行動規範」に参加</p>
27 (火)	●ディミトロフ経済・エネルギー大臣：アルワイリ・イラク国家安全担当相と会談
28 (水)	<p>アセノフ官及び次官2名が辞表を提出</p> <p>●ノルウェー、リヒテンシュタイン、アイスランドの3国が環境、再生可能エネルギー、人材開発、教育、保健、文化遺産保護等の分野で総計21.5百万ユーロの無償資金協力を供与する旨発表。</p> <p>●国際防衛装備展覧会 HEMUS 2008 がプロヴディフ市で開催される（～31日）英独仏米等18カ国95社が参加</p>
29 (木)	●ノルウェー議員団、ブルガリアを訪問。大統領、首相、国民議会議長と会談（30日）
30 (金)	<p>●国民議会：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米・ブルガリア科学技術協定批准 <p>●ミコフ内務大臣：アルワイリ・イラク国家安全担当大臣と会談</p>
31 (土)	

ブルガリア経済指標(2008年5月)

出所：国家統計局、中央銀行、ブルガリア証券取引所

